事例No.	1920
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	熊本県水俣市

事例区分	公営企業

タグ	・病院事業 ・ICT ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	DX

事例内容・タイトル

医療アクセス困難者を支援する遠隔連携診療モデルの構築

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【熊本県水俣市】
医療アクセス困難者を支援する遠隔連携診療モデルの構築

DX　病院事業

国保水俣市立総合医療センター総務課情報企画室

● 取組概要

高齢者やがん患者などの医療アクセス困難者の暮らしを支える仕組みとして、医師・看護師等との連携診療を組み合わせた「オンライン連携診療モデル」を構築した。

◆総事業費　システム開発委託費、備品購入費9,848千円

◆背景

- 本市では少子高齢化が進行し、医療介護従事者は慢性的に不足、介助が欠かせない移動困難者も多く、通院には患者や家族・介護者に時間的、身体的、精神的な負担が生じており、医療へのアクセシビリティの確保と負担軽減が課題であった。
- これらの課題を解決するため、ICTを活用した遠隔診療システムを構築することとした。

◆具体的内容

- 県の医療連携基盤「くまもとメディカルネットワーク」を活用し、既往歴、処方、検査・画像等診療情報をリアルタイムに共有できる環境を構築し、地域医療連携ネットワークを併用した遠隔診療システムを構築した。
- 医療アクセス困難者の暮らしを支える仕組みとして、医師・看護師等との連携診療を組み合わせた「オンライン連携診療モデル」の仕組みを構築した。

◆効果

- 病院への移動や診察までの待ち時間がなくなり、患者や家族・介護者の労力が軽減された。（診察に係る拘束時間が約180分から約30分、従来の1/6に軽減。）
- 患者の自宅や施設など慣れた空間で診察を受けられるため、精神的負担が軽減。
- 医師は普段関わらない施設等スタッフと情報共有ができ、診療に役立てる事が可能。

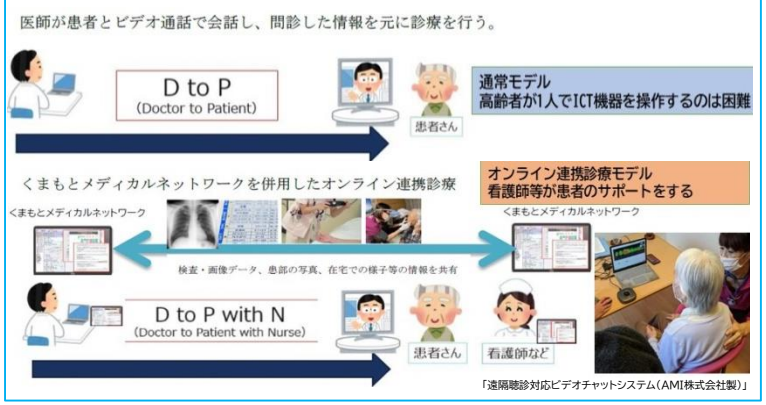
● 取組のポイント

- 医療アクセシビリティを改善する手段として、ICT活用による「オンライン連携診療モデル」の仕組みを導入し、患者・家族・介護者の負担軽減が実現された。
- 県で整備済みのくまもとメディカルネットワークの医療インフラを活用し、費用をかけることなく既存ICT活用による医療DXを推進できた。
- 財源を確保するため、令和3年度過疎地域持続的発展支援交付金等の国庫支出金を活用した。（医療アクセス確保と住民のＱＯＬ向上のための多職種参加型オンライン連携診療モデルの構築事業）

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　23,217人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　163.29 km²（令和4年1月1日時点）
- 許可病床　361床（令和3年度決算）

遠隔連携診療のイメージ



● 取組のスケジュール

- 令和3年度に水俣市と総合医療センターにより、モデル構築の検討を開始。
- 令和3年度にオンライン連携診療モデルの試験的運用、介護福祉施設への説明会を経て本運用を開始。
- 令和4年度も引き続き事業を継続し、市内の他医療機関へのモデル普及に取り組んでいる。

● 今後の展望

- 引き続き、へき地での医療機能の維持を目的とするICT技術を応用した医療DXを推進する。
- 高齢者等医療アクセス困難者が、いつでも医療機関にかかれる環境、医療アクセシビリティをICT技術で支援する仕組みを目指す。